

# 書の光

書道研究誌

6  
2025



Vol.682  
宮城野書道会

漢詩を味わう

第191回



しょかそくじ  
初夏即事

王安石

石梁茅屋有彎磈  
石梁  
茅屋  
彎磈有り

流水濺濺度兩陂

流水

濺濺として

兩陂を度る

晴日暖風生麥氣

晴日

暖風

麥氣を生ず

綠陰幽草勝花時

綠陰

幽草

花時に勝れり

石の橋、茅葺の家、湾曲した川岸、  
流れる水はサラサラと両側の土手の間をすきぎてゆく。  
晴れた日の光と温かい風の中に、麦の香りが漂い、  
緑の木陰とひつそり茂る草は花咲く季節にまさる。

〈即時〉その場の情景をすべくそのまま詩にすること。

〈石梁〉石の橋。  
〈茅屋〉かやぶきの屋根。  
〈彎磈〉湾曲した川岸。  
〈濺濺〉水の流れる音。  
〈兩陂〉両側の土手。  
〈幽草〉ひつそりと茂る草。

王安石（一〇二一～一〇八六）は、「唐宋八家」に数えられる傑出した文筆家として詩人ですが、中国史では北宋の大政治家としての名声が勝ります。第二次世界大戦当時の英國連邦を率いたウインストン・チャーチルが、ノーベル文学賞の受賞者だったことより、政治家としての名声がはるかに高かつたことに似ているとも言われ、なるほどと思います。政治家として危機に瀕していた北宋の国家財政を立て直すために「新法」を制定して急進的改革を実施し、司馬光や蘇軾らの「旧法党」と長期にわたり深刻な派閥抗争を繰り返したため、政局の混迷のきっかけを作ったと言われ、歴史的評価は高くありません。人物評価は勝者の立場から見られることは世の常です。

遺された詩には、社会の苦しみに目を向け、農民や人々の生活に目を向ける詩が多くあります。「塩を収む」と題した詩では、作物が育たない島で塩を作ることによって生計をたてる人々から、塩の専売制を守るために塩作りを取り上げることを「一民の生、天下に重し、君子ともに秋毫を争うに忍びんや。（人民のたつた一人の命でも天下にあつては大事なもの。君子たるものは人民とわずかばかりの利益を奪い合うなんてとてもできない。）」「廩を發く」という詩では蔵を開いて生活の苦しい人々を救う政治家の気概を詠み、「河北の民」では、外国との屈辱的条約によつて強制的な上納に苦しみ、政府の労役も課せられるという人民の苦労を詠っています。

王安石と十五歳若い蘇軾とは政治的には激しく対立しましたが、蘇軾は黄州の流謫生活から許されて汝州に転任する途中、すでに隠棲していた南京の王安石宅を訪ねて楽しく談論したことが、蘇軾が王安石に送った手紙から知られています。因みに蘇軾が黄州へと流された当時は、王安石が引退した翌年です。

この詩は王安石が引退後のものです。初夏のひととき、眼前に広がる自然の風景のなかに漫り、静謐な境地に憩う王安石の喜びが映し出されています。最後の句「緑の木陰とひつそり茂る草」は隱棲後の境地で、「花咲く季節」は宰相時代の事であることが判ります。

晩年は惟だ静を好み、萬事心に關せず。自ら顧て長策なく、空しく旧林に返るを知る。松風は解帶を吹き、山月は彈琴を照らす君は窮通の理を問う、漁歌浦に入つて深し。

游子惜年華  
心事不寧時  
自能無苦惱  
但恐憂愁來  
不知何處去  
始念此身如葉  
飄飄山雨過  
蹉跎的年華  
猶復上  
浦深

〔大意〕晩年になつてからは、ただ静かなのが好きで、すべてのことに関心がない。自分で振り返つて考えてみても、世に処するすぐれた手立てはない、古巣に帰るしかないのを、いたずらに知るばかり。さてその古巣では、誰憚らぬくつろいだ体を、松風はそよそよと吹き、琴を弾けば、山月が清らかに照らす。あなたは、俗世の窮屈の哲理をお尋ねになるが、あの漁夫の歌が、入江ふかく聞こえているではありませんか。（王維詩・張少府に酬ゆ）

心和し氣平かなる者は百福自ら集まる

心和氣平者  
百福自集

『大意』心が和やかで気持ちの穏やかな人のところには、あらゆる幸せがしづかに集まつてくる。(菜根譚)

読み

世故も亦た屡しば更たり  
せごもまたしづしばへたり

(世の中の変化もたびたび経験した)

屢々  
世故  
更  
亦

佐藤象雲書

# 一般部規定課題(解説)

## 一般部規定課題出品について

規定課題は段級の区別なく、前頁掲載の五言句となります。

初段以下の方に限り、前半二文字または後半三文字でも構いません。

規定課題(楷書)の出品はひとり一点に限ります。

## 連月課題

蘇軾詩  
「呂行甫司門の河陽に  
倅となるを送る」  
(前半)

横画をどうしりと  
三縦画の高さに変化はあるが、分間は齊しく。  
AとBの広さも略等しく。

偏に旁が寄り添うかたち。  
第八画の左側空間を狭くして  
右払いを  
暢ひやかに。

左右点画の高さと角度を照応させる。

結交不在久

交を結ぶこと 久しきに在ざるも

傾蓋如平生

蓋を傾ぐこと

平生の如し

識子今幾日

子を識りて

今幾日ぞ

送別亦有情

別れ送りて

亦た情有り

子生公相家

子は公相の家に生まれ

高義久崢嶸

高義 久く崢嶸たり

世故亦屢更

世故も亦た屢しば更たり

天才既超詣

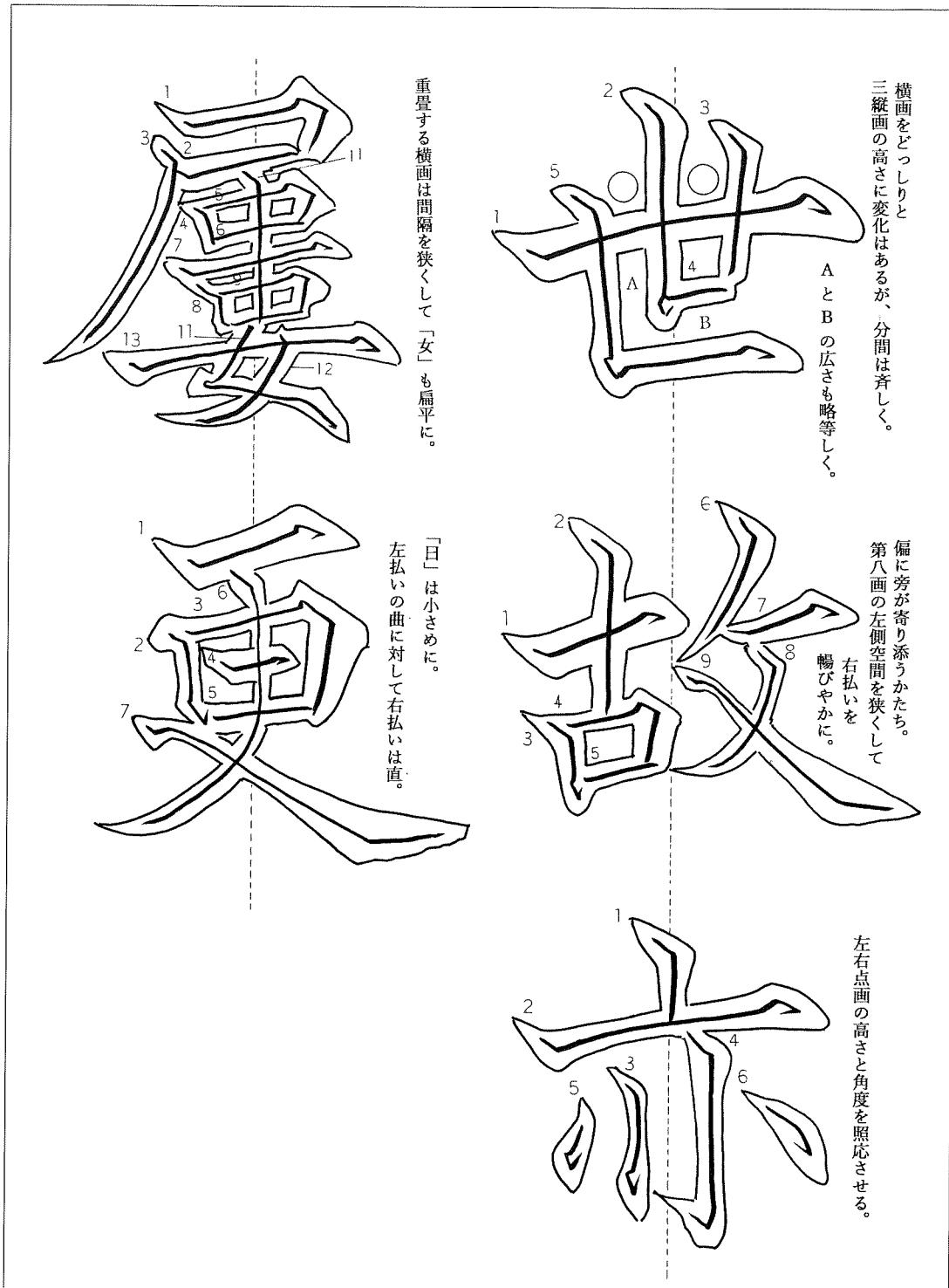
天才 既に超詣

譬如追風驥

譬如えば風を追う驥の如し

豈免羈與纓

豈に羈と纓を免れんや



## 草書

## 行書

◇各体とも書風は自由です。特に上位者は古典などを参考に創意溢れる作品を(+)出品ください。

※成家・師範の随意作品出品は二点までです。

居重  
古如  
ニ

屢更  
故ふ

## 次号課題

## 隸書

風驥  
辯如  
追

屢更  
世故  
亦

たと譬如ば風を追う驥の如し

(両部とも本会所定の指定用紙を使用のこと)

支 部	
順 位	
氏 名	

心のアヅを澄す池かな  
はちす涼くあたりの風のかほりあひて

劍 號 宝 開 珠 稱 夜 光

劍號を承認するものとされ  
る。宝とは夜光珠が名高い。

音  
ケンゴウキヨケツ  
シュショウヤコウ

略解  
剣は巨闕と称して宝とされる  
珠としては夜光珠が名高い。

遠  
跡  
胥  
史  
胥  
史  
遠  
跡

跡を胥史の（とねらに）遠ざけ……

遠  
跡  
胥  
史

象雲臨

『遠跡胥史』

今月の課題は、「孔子が王侯のような録に預かる恩恵を受けず、胥吏の身分に身を隠していた。」という一節の部分です。「胥」は一字で小役人という意味があり、胥吏は記録をつかさどる役目の歴史官で、下級役人のことを意味する「胥吏」意味合いで胥吏と書かれているようです。「胥」の上部は古典によく登場する書写体です。上部の疋は「足」から来ている字です。

この一節には孔子廟堂碑の大きな特徴である、暢びやかな右払いが二字に入っています。扁平な「跡」と縦長な「胥」を調和させるようにしましょう。

■虞世南・孔子廟堂碑

(初唐・西暦六二九年頃) の臨書

(9)

目撃すれば道存す

■孫過庭・書譜  
(初唐・西暦六八七年)の臨書

象雲臨

「目擊道存」

「目撃すれば道存す」は、莊子に見え  
る「直観で悟る」から来ている語で、す  
ぐれた作品は、それを一見しただけで、  
書はどうあるべきかという道がはつきり  
わかるという意味です。

下部の左右で跳ね上げた線を交える筆遣いは、国構えなど囲みの基本形です。穩やかな下ふくれの円に。

〔撃〕 縦長の結体。上部を大きく。

**【道】** 上部を大きく。二点から続く斜線が滑らかに空間を滑り、下部は小さく。  
**【存】** 肉太の線でどつしりと。第二画の斜線を強くして「子」はキリつと結ぶ。

The image displays four large, bold, black brush strokes arranged in a 2x2 grid against a white background. The top-left character is '心' (Heart), characterized by its fluid, sweeping forms. The top-right character is '意' (Intention/Meaning), featuring a more circular and enclosed structure. The bottom-left character is '行' (Action/Way), with a dynamic, horizontal flow. The bottom-right character is '事' (Matter/Event), rendered with a vertical stroke and a horizontal crossbar. These characters represent core concepts in Chinese philosophy, particularly in the context of Confucianism and its focus on personal development and social responsibility.

同人  
之君